

平成二〇年度 特別展

加賀の東照宮

尾崎神社展

金沢市立玉川図書館  
近世史料館

## 尾崎神社展に寄せて

## 尾崎神社の歴史

尾崎神社の本殿附厨子・中門・透屏・拝殿及び幣殿・附棟札四枚は国  
の重要有形文化財に指定されております。

これら国指定文化財のうち、本殿及び中門の修理工事が本年二月より  
来年三月にかけて行われており、今回これを契機に、本殿に収納されて  
いた社宝・神宝類を、広く市民の方々に接していただく機会を設けてい  
ただけました。

展示品は神社資料であり、当然宗教的な意味をもつ品々ですが、  
これらは徳川家康を祭神として建立された尾崎神社の東照宮としての歴  
史の中で生まれてきたものであります。

尾崎神社の歴史と収藏される品々はまさに幕藩体制下における藩主前  
田家の対幕府策を含め、加賀藩・前田家の歴史を語る資料としての面を  
も持つものであり、一神社・一宗教を越えた郷土の歴史資料として評価  
されます。

貴重な資料の品々を、近世史料館において展示することをご快諾いた  
だいた尾崎神社宮司永井隆様にお礼を申し上げます。

通常は尾崎神社本殿の奥に収蔵されている品々に接することは稀なこ  
とであり、この機会に多くの皆様にご覧いただければ幸いります。

平成二十年十一月八日

金沢市立玉川図書館 館長 森田 勝

尾崎神社の社号は明治七年からのもので、藩政期には金沢城内北の丸  
に建立され「東照宮」「権現堂」「御宮」と称されていた。同社に残る棟  
札には「東照三所大權現社」と記される。この名から判るように徳川家  
康を祀る社であつた。

寛永十七年（一六四〇）四代藩主前田光高の願いにより、幕府は東照  
宮勧請の認可を与え、同二十年（一六四三）御神体を東叡山から迎え社  
殿を竣工した。

徳川家康の神格化、日光東照宮の設置には、天台僧天海が大きな役割  
を果たしたが、加賀への勧請においても棟札に「寛永式拾年九月十七日  
御導師山門三院執行探題大僧正天海」と見え、天海は病により加賀には  
来ていないが、名目上にせよ東照宮の加賀勧請に大きく関わっていた。

日光東照宮は元和三年（一六一七）に築かれ、同年東照大權現の神号  
が与えられた。その後、東叡山寛永寺や御三家に勧請され、間もなく前  
田家にも勧請が許され、前田家への勧請は他の外様大名に影響を与える  
以降約六百の東照宮が全国に誕生したといわれる（圭室文雄『政界の導  
者天海・崇伝』）。

廢藩以後は城地が陸軍省管轄となつたため、明治十一年旧御算用場跡  
の現在地に移転した。同年移転に係る棟札には「東照大神尾崎神社」の  
名称が記されている。

現在祭神は天照大神・源朝臣家康・菅原朝臣利常の三神となつていて  
いる（『石川県神社史』）。

東照権現像（徳川家康 一五四二—一六一六）絹本着色

一〇四×四六cm

讃

帰命満月界  
淨名瑠璃光

法薬救人天  
因中十二願

三国伝灯

山門執行権頂  
大僧正天海同様



束帶姿の家康遺像である。上部は雲とその雲中に讃が記され、雲下には葵紋が施された垂簾、その下に顔を画面の左に向けた家康が描かれている。背景には日光の山容と社殿と思われる景色が配されている。手前欄干内には阿吽の狛犬が配置され拝殿を表している。

このような権現像の初出は寛永十四年（一六三七）といわれ（守屋正彦『近世武家肖像画の研究』）、初出とされる滋賀県聖衆来迎寺の画像は四代木村了琢が描き、天海の讃とされる。権現像の画師には木村了琢の他に狩野安信・狩野山雪がいた。

尾崎神社蔵の画像は絵師・讃の筆とともに不詳であるが、東照宮創建時の寛永二十年（一六四三）に下賜されたものと推測され、また讃に「天海同様」とあり、天海自筆の讃と同様の意を持つものと解される。

天海書状 寛永二十年八月二十日

日光東照大権現十八將之図

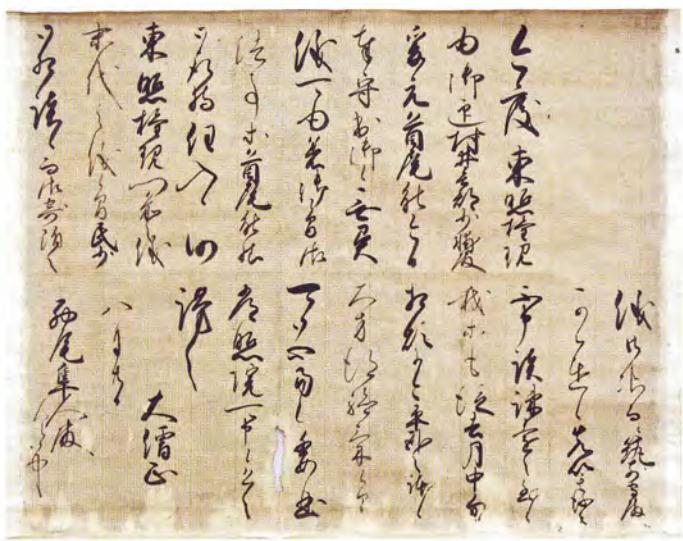
絹本着色 九七×五五cm

徳川の将を描いたものとしては、十六將図・二十將図は見られるものの、十八將図は少ない。同様の様式をもつものとして武田二十四將図などがある。

図は上部中央に床机に腰掛けた家康と思われる人物の下半身のみが描かれ、上半身は御簾に隠され、その上も霞が引かれている。

武将は上部に五人残り十三人が左右対座する定型的な描かれ方をしており、武将の様相も兜を着した者、頭巾を着した者など種々である。各武将名は記されていない。

右下印文「雲水飛動」。作者 不詳



今度東照権現  
為御迎、村井兵部少輔殿  
爰元首尾能今日  
奉守出御候、無異  
儀可為着御候間、御  
法事等首尾能様  
御取持任入候、仍  
東照権現門前之儀、  
末代之義候間、民少  
御相談候而御寄附之

謹言

八月廿日

大僧正

西尾隼人殿

人々御中

※東照権現の靈代が江戸を発し、金沢に向かつたことを伝え、自身の病のこととも伝えている。

棟  
札

上棟式に願主・上棟年月などを記して棟木にとりつけたもので、社殿造営・修復の期日を示すものとなる。尾崎神社の本殿・拝殿等は国指定の重要有形文化財となつており、棟札①～③も併せて指定されている。

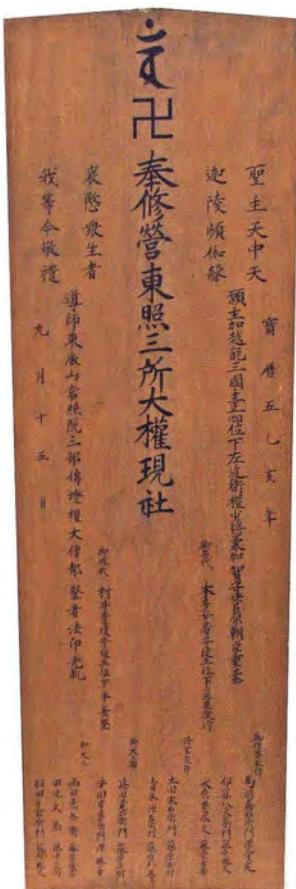


① 寛永二十年（一六四三）九月十七日 八〇×二九cm

願主前田光高 創建

③ 宝曆五年（一七五五）九月十五日

八〇×一七



② 延宝五年（一六七七）五月二十八日  
願主前田綱利（綱紀）修復 八〇×二九cm

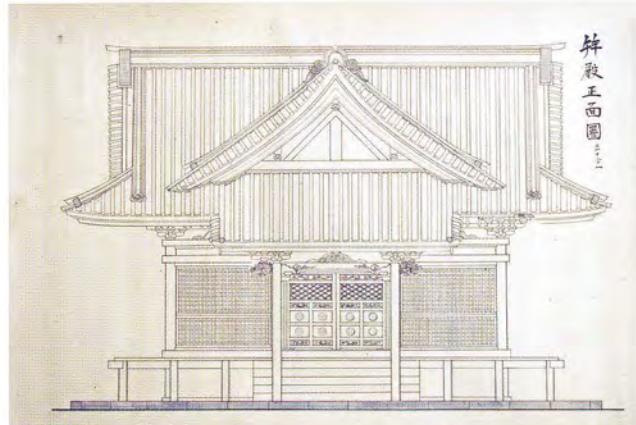
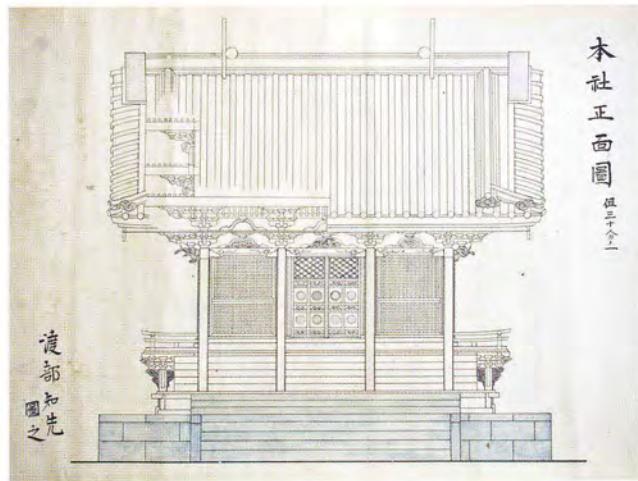
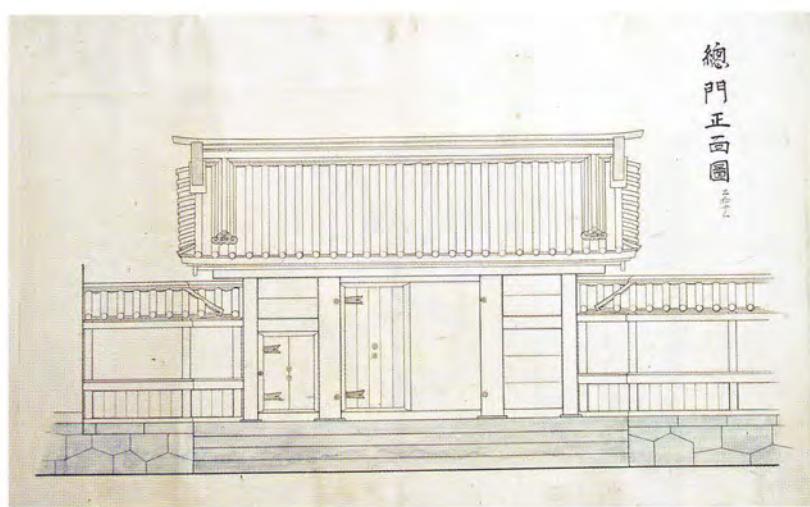
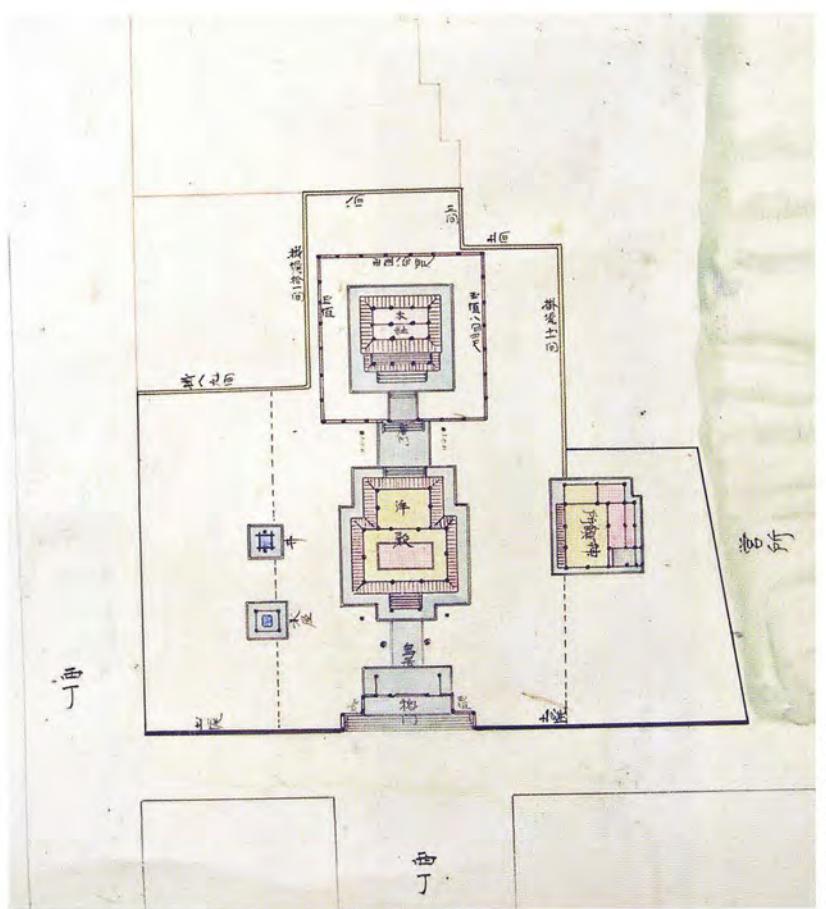
④ 明治十一年（一八七八）九月二十五日 八〇×二七cm  
移転・移築



御宮移転図巻　卷子　一部彩色

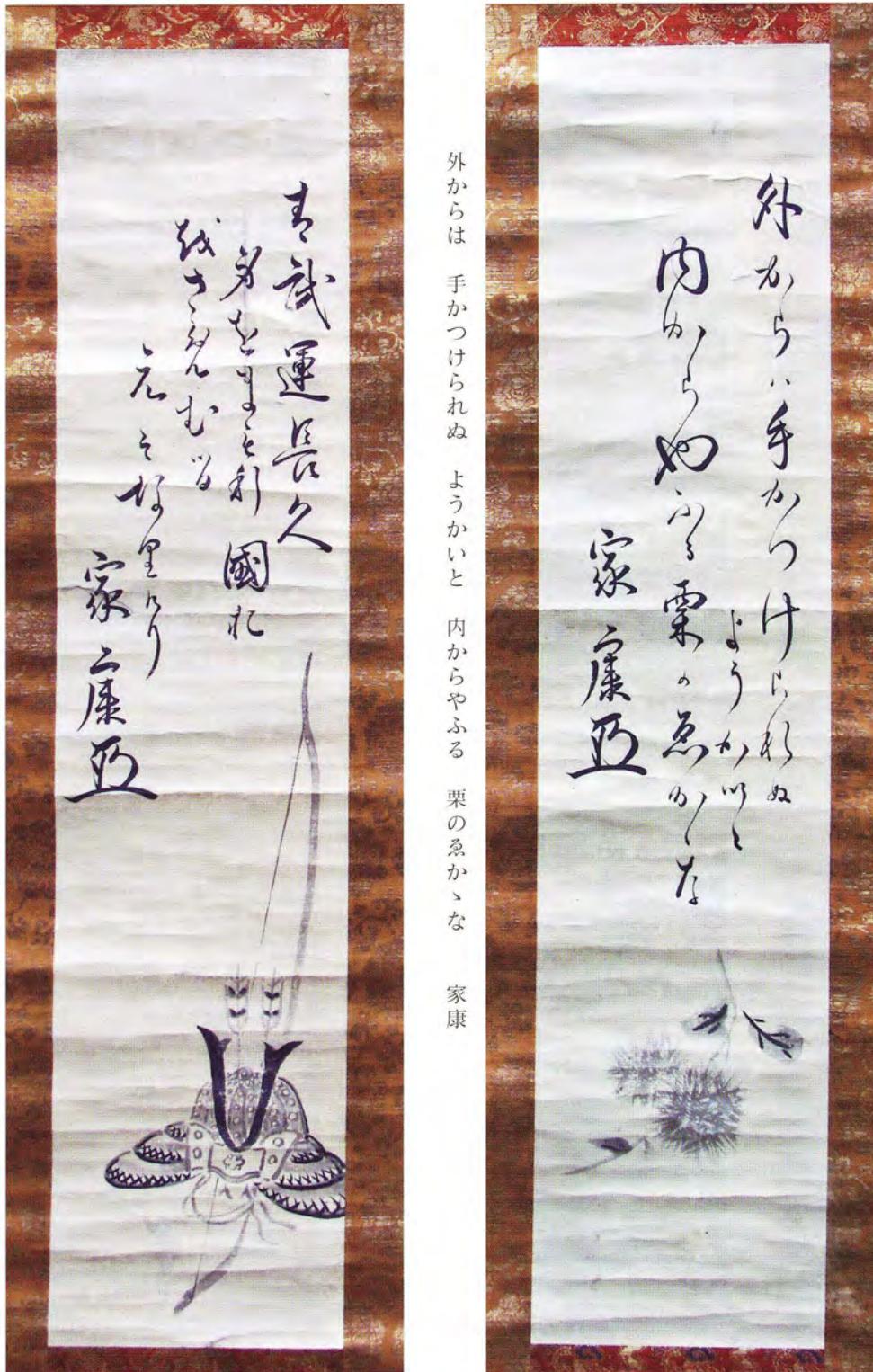
明治十一年城内北の丸より現在地に移転する際に作成されたもの。ここでは全てを掲載することはできないが、記載されている図は尾崎神社在来地指図（城内立地時）、神社転地惣地指図（現在地）および建物図面として、総門側面図・同正面図、隨身門側面図・同正面図、鳥居ノ図、水屋ノ図、井戸覆ノ図、拝殿地指図、拝殿側面図・同正面図、神饌所側面図、唐門側面図・同正面図、御本社指図、本社側面図・同正面図が描かれている。配置図は四百分の一、立面図は三十分の一、平面図は五十分の一の縮尺となっている。

図は渡部知先の手による。加賀藩御大工の中に渡部祐六郎知重の名が見られ、その嫡子に初之進という者がいる。初之進は嘉永二年（一八四九）に御雇となり、三十俵の扶持を得て、慶応三年（一八六七）には定番御歩次列御作事御用を勤めている（御大工頭御大工被召出候名前等覚書帳　清水文庫）。知先の名は出ていないが、初之進が本図を作成した渡部知先であると考えられる。



**奉納刀劍** 陀羅尼勝国作 長二尺七分・反り一寸五分

鞘部に「奉納 加州住陀羅尼橋勝国作」とある。尾崎神社には他にも若狭守氏房・大和大掾藤原正則・二王清方・宮一貫斉国護銘の奉納刀がある。今回は郷土の刀工として陀羅尼勝国のかたの作刀のみを展示した。勝国のかたは初代勝家は越前に住したが、二代勝家より加賀国金沢に住した。勝国のかたの使用は寛文期の善三郎と貞享期の善三郎、享保期の善三郎と三代にわたり勝国を名乗っているのが確認できる（「加越能鍛冶略伝」）。



東照神君遺訓（教訓和歌）

一〇一×二二一・五cm

東照神君遺訓として伝えられ、家康の署名と花押が付された和歌二首。



中納言家持



凡河内躬恒



柿本人麿



源公忠朝臣



忠敦言納中權



中納言兼輔



坂上是則



藤原興風



藤原清正



猿丸大夫



素性法師



在原業平朝臣



源宗于朝臣



藤原敏行朝臣



斎宮女御



平兼盛



大中臣能宣朝臣



三条院女藏人左近



山邊赤人



伊勢



紀貫之



山生忠岑



藤原高光



中納言朝忠



藤原元輔



清原元輔



源順



### 三十六歌仙図額面

板絵彩色

四六・七×三〇・二cm  
石川県指定文化財

石川県指定文化財

奉納年・奉納者・作成年・筆者は不詳である。  
筆者については、背景の草花が宗達風であり、歌仙の形  
容が宗達筆の歌絵の原形を有しているところから、加賀藩  
の絵師俵屋宗雪ではないかと推測されている（『金沢市の指  
定文化財と指定保存建造物』）。

俵屋宗雪は喜多川宗説とも記し、宗達の子とも弟子とも  
される。宗雪は東照宮創建時の人物であり、東照宮の創建  
時に三十六歌仙図額が作成されたものと考えられよう。

また、東照宮創建に関わった幕府の御大工木原本工允は  
川越の東照宮再興において歌仙奉掲の差配にあたつており、  
金沢の東照宮への歌仙奉掲にもかかわっているのではないか  
とされる（戸淵幹夫『三十六歌仙絵馬奉納の社会史』石  
川県立歴史博物館紀要十五）。

三十六歌仙は、すぐれた三十六人の歌人の歌仙連歌の略  
称であり、後拾遺集時代までのものを「左」、それ以降のも  
のを「右」としている。

歌仙図は三十六歌仙の像と詠歌を書き添えたものである。  
これら歌仙絵を扁額として神社の奉納するようになるのは  
室町時代中期からといわれる。



尾崎神社拝殿



本殿狛犬  
(創建時のものと推測される。)

## 平成20年度 特別展 加賀の東照宮 尾崎神社展

会期 平成20年11月8日(土)～20年1月12日(月)  
編集・発行 金沢市立玉川図書館近世史料館  
印刷 田中昭文堂印刷株式会社

※なお、11月24日(月)～12月5日(金)は特別整理期間のため休館。  
12月29日(月)～1月5日(月)は年末・年始の休館となります。

※表紙：寛文八年(1668)「加賀国金沢之絵図」(本館蔵)